Kobayashi, H. & K. Ueki. Variation in Photoperiodic tuber formation in *Eleocharis kuroguwai* (Cyperaceae). Mem. Coll. Agri., Kyoto Univ., No.113：67−80.

Mukai, H., K. Aioi, I. Koike, H. Iizumi, M. Ohtsu & A. Hattori. Growth and organic production of eelgrass (*Zostera marina* L.) in temperate waters of the Pacific coast of Japan. I. Growth analysis in spring−summer. Aquat. Bot. 7：47−56.

Sastroutomo, S. S., I. Ikusima, M. Numata & S. Iizumi. The importance of turions in the propagation of pondweed (*Potamogeton crispus* L.). Ecol. Rev. 19：75−88.

Shibasaki, T. & Y. Oda. Heterogeneity of dormancy in the turions of *Spirodela polyrhiza*. Plant & Cell Physiol. 20：563−571.

Yamasaki, S. & T. Saeki. The effects of the oxygen supply from the shoot on *Zizania latifolia* growth. Jap. J. Ecol. 29：249−256.

<1980>

薄葉　満　福島県浜通り地方の食虫植物　食虫植物研会誌　No.92：1−10.

大滝末男　アサザの二型花と開花現象について　レポート日本の植物　No.5：44.

岡島一允　日本南限地のミズバショウ　植物と自然　14（8）：35.

金井弘夫　尾瀬ケ原の池塘番号と水生植物の分布状況「尾瀬ケ原及び周辺地域の総合的調査研究」（総研報告書）：69−75.

神田房行・角野康郎・大滝末男　釧路湿原の3湖沼の水草について　植研　55：16−19.

小宮定志　日本産タヌキモ科植物の学名について　食虫植物研会誌　No.91：10−17.

桜井善雄　1979年の諏訪湖における水生植物フロラ　諏訪湖集水域生態系研究報告（文部省環境科学特別研究）第5号：65−69.

豊田清修　ハスの実の生死および概略年数を判定する法　植物と自然　14（10）：29−31.

———　生長に伴うハスの葉の形態　植物と自然　14（1）：31−33.

中川盛四郎　滅びゆくオグラコウホネ　植物と自然　14（3）：31.

成田和樹　津軽のため池　−ため池の植生−　植物と自然　14（10）：32−33.

浜島繁隆　池沼・湿原の天然記念物　植物と自然　14（7）：29−34.

平井　屯　自然度2の都市近郊農村地帯における植物の分布　1. コカナダモの分布拡大　エヒメアヤメ　No.28：1−14.

古里和夫　湿原植物の栽培管理　植物と自然　14（8）：34−35.

（次号につづく）

短　報

○信州のエゾノミズタデ（角野康郎）

エゾノミズタデは北海道及び東北地方の一部に分布する両生植物であるが，長野県にも二ケ所ほど産地が知られている（横内斎「信濃の湖沼」，1966；大滝・石戸「日本水生植物図鑑」，1980）。

今年の7月，そのうちの一ケ所である飯綱大池に立ち寄った。大規模な築堤工事が行なわれて，池そのものの様子は変わったようだが，エゾノミズタデは今も大群落をなして生育していた。他にオヒルムシロやエゾヒルムシロも生えていて，北方の湖沼と共通する環境をそなえていることが予想できた。

○イヌイトモの第2の産地（角野康郎）

昨年，北海道釧路市でイヌイトモ（Potamogeton obtusifolius）を発見し，日本で最初の記録として『植物分類地理』に報告しておいた。ところが，先日室蘭文化女子短大の原松次教授から同定依頼のあったヒルムシロ類の標本の中に，厚岸町産のイヌイトモが入っていて驚いた。日本で2番目の産地ということになる。

この種については植物地理学上，周大西洋要素とする見方と，周極要素とする考え方があり，その分布が注目されていた。北海道や東北地方でもう少し産地が見つかれば，新しい議論を投げかけることになりそうだ。